これまでの小地域福祉ブロック会議の活動を踏まえた今後の取組
～「小地域福祉ブロック会議」から「(仮称)私のまちについて語り合う会」へ～

	従来の小地域福祉ブロック会議	課題	「(仮称)私のまちについて語り合う会」
メンバー	小学校区ごと 地区福祉委員会は全員 地縁組織(自治会等)の代表	地区によっては小学校区単位が広すぎる 例)町数が多い(精道) 国道をまたぐ(精道、宮川、打出浜) 地区内で状況が異なる(山手のJR駅前と奥池) 自治会のブロック分けと異なる 構成メンバーに偏りがある 当事者の参加がない	範囲は地区の実情に合わせる (地区ごと、町ごと) ※範囲に入らない地区、町への対応をどうするかが課題 従来の参加者だけでなく、活動者、当事者、企業などが自由に出入りできる(プラットフォーム)
目的	課題解決のために組織化する 地域に持ち帰ることにより**活動を生み出す**	地区単位での組織化はできなかった 地域に持ち帰ることができなかった 課題解決を前面に出したことにより **やらされ感が出た** ココを解消したい!!	**話し合う** 自由に話し合うことから今後のまちづくりにつなげる
テーマ	地域の気になる福祉課題	課題が解決しないので同じような話ばかりしている印象をもってしまう	活動者の困りごとより、メンバーが気になっていることを優先する
頻度	年1～3回	活動を生み出すには不十分	地域の実情にあわせて開催する
これまでの取り組み例	ハロウィンイベント 認知症サポーター養成講座	単発のイベント的に終わり継続性が無かった	

「(仮称)私のまちについて語り合う会」は、対象となる範囲、参加者、話し合うテーマを住民が自由に決めることで主体的に参加する会にする

「(仮称)私のまちについて語り合う会」が生み出すもの

地域のさまざまな方が、自由に話し合い、交流することで、新しいつながりをつくり、地域力の強化をめざす。

地域福祉の推進

地区福祉委員会を中心に、この「(仮称)私のまちについて語り合う会」によってできた新たなつながりの協力を得ながら推進する。

専門職の関わり

話し合いの中で生まれる「つぶやき」(心配ごと、違和感、もっとこうだったらいいのに…等)を大事にする。それらを住民と一緒に解決していけるように働きかける。
話し合いの結果、地域で何か活動(社会資源の開発やイベントなど)をやってみようということになった場合は、専門職が活動を支援する。
※専門職＝社協地区担当、地域支え合い推進員、高齢者生活支援センター等